

学燈 *gakutou*

【第13号】



「山口大学教職大学院で学修する意義」 ～専攻長インタビュー～

教職大学院ニューズレター「学燈」では、各年度第1号の巻頭には、専攻長のメッセージを掲載してきました（創刊号は研究科長）。このメッセージを院生がより主体的に捉え、各自の研鑽につなげたいと考え、本年度は院生が専攻長にインタビューを行うという形式で行いました。

「山口大学教職大学院で学修する意義」というテーマでインタビューを行いましたので、その要約をお伝えします。



Q：教職大学院の学修で、設立当初から変わらず大事にしていることについて教えてください。

A：【※聞き手の要約による】

教職大学院の学修は「理論と実践の往還」といわれるが、なぜそれが重要なのかを考える必要がある。例えば実践論だけでは、実践する人や環境によって、必ずしも同等の成果を上げることができるとは言えない。実践を理論化することによってその効果を汎用的に活用することが可能になる。しかし、逆に理論のみに偏ることは教職大学院設立の趣旨（高度専門職業人の育成）に反する。学校・地域の課題に即した実践研究（理論と実践の往還）を行うことによって、学校や行政機関にとどまらず、地域社会全体にその成果を還元する。そのことが本学教職大学院に求められている。

Q：5年目を迎え、今後を展望し期待することについて教えてください。

A：【※聞き手の要約による】

時代の変化に伴って、組織の在り方も変化を求められる。時代のニーズに対応していくことは必要であり、それは教職大学院においても同様である。今後とも現状に満足することなく、常に進化・発展を求める組織でありたい。

また、教職大学院での学びの本質は、講義、演習、実習等の授業時間とともに、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間を内在している。狭義の学習にとどまることなく、より一層各自の創意工夫を生かした有意義な学修を展開していくことが望まれる。

山口大学教職大学院5年目を迎えるにあたり、設立の準備期間や開院当時を懐かしみながら笑みがこぼれたり、鋭いまなざしで思いを語られたりされました。時には専攻長としてのやりがいや苦勞、挑戦、院生への期待を感じる有意義なインタビューになりました。

3 コースの魅力・工夫点

学校経営コース

学校経営コースは、学校及び地域における教育諸課題に対し、組織的・経営的に取り組む指導力と実践力を備えた教員の育成を目的としています。山口県内各地から14名（M1：7名、M2：7名）の現職教員が集い、学校経営について学びを深めています。4月、7月、10月、1月は大学中心の学び、その他の月は原籍校での学校実習が中心となります。原籍校では「地域拠点校方式」として、市町教育委員会、山口県教育委員会と連携し、実践研究を行っています。



教育実践開発コース

教育実践開発コースは、学部卒の学生（ストレートマスター：略称「ストマス」）を高度な授業実践力のある若手リーダー教員へと育成するためのコースです。

大学院の授業では、コースの枠を越えて対話することを通して、理論的な学びを深めています。週2日の学校実習では、授業や生徒指導等について、大学院での学びを通して実践的に学んでいきます。（今年の学校実習は8月から始まります。）

特別支援教育コース

特別支援教育コースには、院生5名（M2：2名、M1：3名）が在籍しています。授業では、特別支援教育に関する歴史や今日的課題、応用行動分析の理論と実践、特別支援教育コーディネーターの役割等についても学んでいます。

授業に加え、研究会においても現職教員とストマスの交流が多いのが特徴です。現職教員はストマスへフィードバックすることで理論について整理し、ストマスは学校現場をイメージしながら実践について検討するなど、相互に学びを深め合っています。



お知らせ

【中間発表会・成果報告会について】

大学、学校現場では、新型コロナウイルス感染症対策を契機に、今までの教育活動からの大幅な変更が求められています。中間発表会・成果報告会についても、今年度は例年と同様の方法で実施することが困難であることが予想されます。院生プロジェクトチームとしては、感染症対策を行うという消極的な視点だけでなく、「よりよい中間発表会・成果報告会の在り方の模索」という視点も意識しながら企画していきたいと考えています。教職大学院が一体となって取り組めるよう企画を進めていきますので、ご協力よろしくお願いします。



昨年度成果報告会より

【ポスターについて】

「オンデマンド説明会」に関しての今年度版ポスターが完成しました。このポスターは、山口大学教職大学院をより多くの人に知っていただくための「オンデマンド説明会」の実施を周知するために院生が作成いたしました。大学内（掲示板や売店前や院生室付近）や実習校、原籍校等をメインに掲示しています。

以下、今年度のポスターの特徴を紹介いたします。

- ① 誰を対象にどんなことを説明する会なのかイメージしやすくしました。
- ② 3つのコース分けがあることを把握しやすいようにしました。
- ③ 黒板をモチーフにしたことで教育関係者が親しみやすさを抱けるようにしました。
- ④ 主催しているのはどこかを大きく示しました。
- ⑤ 「学燈」につながるQRコードをはじめて掲載し、過去の「学燈」からも、より教職大学院のことが分かるようにしました。

「オンデマンド説明会」は、教職大学院の教員だけでなく、院生（学ぶ立場）からも具体的な説明が聞くことができるよい機会です。原籍校や実習校はもとより、幅広い場所での「オンデマンド説明会」の実施に、このポスターを活用していただければと思います。

山口大学 教職大学院

学校経営コース
教育実践開発コース
特別支援教育コース

オンデマンド説明会

「教職大学院って何？」
と思ったそのあなた！
私たちが説明に伺います

まずはここにお問い合わせを

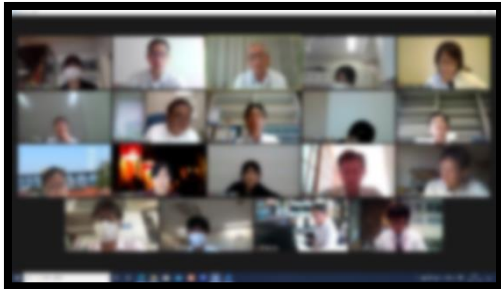
- 学校経営コース 小倉 好勝 ogura.yoshikatsu@ysn21.jp
- 教育実践開発コース 青木 達也 b001mn@yamaguchi-u.ac.jp
- 特別支援教育コース 上杉 瞳 uesugi.hitomi@ysn21.jp
- 全コース 佐々木 司 tsasaki@yamaguchi-u.ac.jp

山口大学 教職大学院 HP



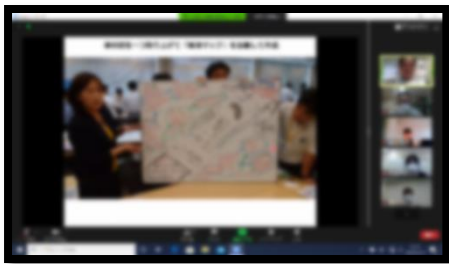
オンデマンド説明会資料より

今年度の様子



【ビデオ会議アプリ「Zoom ミーティング」 (以下 Zoom)を活用した授業について】

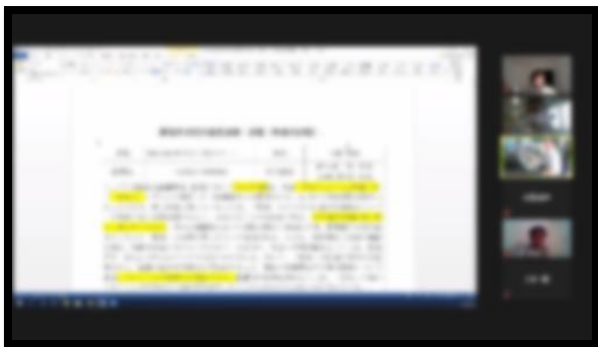
今年度は感染症対策のため、多くの授業で Zoom を使用しています。不便な面もありますが、遠方の講師の先生のお話を聞かせていただいたり、M 2 の授業に M 1 も参加させていただいたり、参加のしやすさ、情報共有のしやすさなど、メリットも感じられます。



現在、それぞれの教育現場においても大変な状況となっていますが、Zoom を活用することによって得られるメリットを生かしていくなど「ピンチをチャンスに」という思いをもって、新たな教育の創造に繋げていきたいと思っています。

【ランチミーティングについて】

今年度から、毎週木曜日の昼に、「ランチミーティング」を行っています。



「ランチミーティング」では、大学教員、M 2、M 1 の院生が昼食を取りながら、情報交換を行ったり、交流したりしています。第 1 回は、4 3 番教室に集まり、M 1 や今年度来られた大学の先生方が自己紹介をするなど楽しい時間を過ごしました。感染症対策のため、2 回目以降は Zoom でのランチミーティングとなっていますが、形成的評価の模範例やおすすめの研究資料、セミナーの開催の案内などあり、有意義な時間になっています。

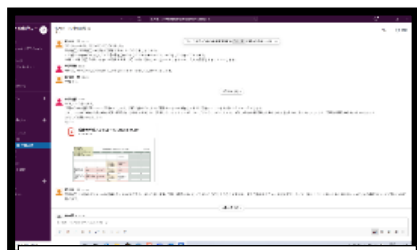
【形成的評価について】

本教職大学院は、6 月初旬に前期形成的評価を行いました。前期形成的評価とは、前期の講義(学校実習も含む)の中間時点で、受講者が講義を通して得た学びや考察について書き、講義担当教員に提出し、コメントを頂くことで、受講者の成長及び発展と教員による支援の充実を図ることを目的としています。

今年の前期形成的評価は、感染症の影響で、ストマスは学校実習に行くことができず、本教職大学院の強みである「理論と実践の往還」が難しかったため、理論を中心とした内容になりました。しかし後期からは、学校実習も再開するため、前期の講義で学んだ理論を学校実習でたくさん実践し、後期形成的評価では、「理論と実践の往還」を通して得た学びや考察について省察していきたいと思っています。

ゼミの様子

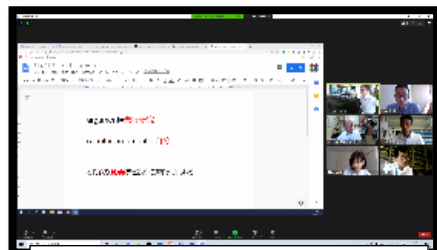
【研究・打ち合わせについて】



SLACK の画面



原籍校での実践



Zoom の画面

4月より行われている佐々木研究室の様子です。最初は研究室で打ち合わせこともありましたが、感染症対策のため、打ち合わせでは Zoom を使用しています。

ゼミの日程調整、研究の進捗状況などは S L A C K を使って、情報や資料の共有を行っており、佐々木先生から研究に関わる助言に加え、論文サイトや論文作成に関わるソフトの紹介などもいただいています。また、院生からも質問したり、月予定表のアップロードをしたりするなど、有効的に活用されています。

ゼミは3人で行うことが多く、M1の立場としては、M2の院生の研究の進め方や検討内容を知ることができ、さらには原籍校での実践も参観させていただくこともあり、大変参考になっています。

【3人指導について】



3人指導の様子

1人の院生に対して、第1から第3まで3人の指導教員が担当して指導にあたっています。時には、3人の先生方から同時に指導を受ける「3人指導」が行われます。多岐にわたる分野について様々な観点が話題に上がり、研究の進捗状況や今後の方針、課題などについて協議を交えながら指導を受けることができます。

写真は板垣研究室の様子です。M2の指導にM1が参加することで、院生間においても刺激を受けたり、視野を広げたりすることができるという取組を行っています。